

た高い対価を支払わなければならない。  
**高まる環境への関心**

一九七〇年に入って、北方の自然環境は産業開発に高きつくというだけでなく、北方や北方住民にあわない資源開発をすれば、環境自体も高い対価を払うことになる、という認識が、いくつかのことが要因になってきた。要因というのは、例えば北方に対する関心が高まったこと、申請されている開発プロジェクトの規模に対する認識、一九六六年における汚染問題や環境会議によって強まった環境への理解、一九七二年のストックホルムにおける国連人間環境問題会議に結びついた環境問題に対する世界的関心の高まり、などである。

環境に対する関心が増大したことで、パイプライン敷設計画の規模がいかにも大きいため、連邦政府は環境問題を含む調査を開始した。同時に、政府は石油産業に対し、パイプライン関係の調査研究やパイプライン建設の正式な申請書の中で、環境および社会に及ぼす影響についても触れるよう、パイプライン建設に関するガイドラインを発表した。

石油産業および政府による研究調査(費用はそれぞれ五千万ドルと千五百万ドル)、バージャー調査(プリティッシュ・コロンビア州のバージャー判事が連邦政府の依頼で行った調査)、その他の調査により、いくつかのパイプライン建設計画の環境に及ぼす影響を調べ上げた。これらの調査の結果、北方における資源開発を評価する場合の生態的基準が確立された。

これは、今日の自然科学上の知識によつ

て、諸建設プロジェクトがじゅうぶん評価、査定できるということではない。自然界のことは、まだよく分っていない部分もある。たとえば、北極の生態系における単純な食物連鎖は、一般的なことでけしか解明されていない。これらの食物連鎖は、インディアンやイヌイットの伝統的経済生活にとって欠かせない大鹿、水鳥、それに海生哺乳動物を支えている、にもかかわらずである。しかも、これらの動物は、カナダの国家的財産であるとともに、国際的にも共同で責任を負っている、にもかかわらずである。

いろいろな種類の動物やいくつかの自然現象については、人間によってもたらされた変化が長期的にどのような結果を及ぼすか、理解どころか、よく知られてもいない。自然破壊が大鹿の移動や水鳥による航空機妨害、あるいは霜の隆起現象などに及ぼす影響が、その例である。

北方の資源開発を生態系の面から評価するには、最近なされた研究調査の二つの主要成果が基礎になる。第一は、すべての生物システムに当てはまる生態上の

幅広い原則を北方の生態系に適用することで、これによって最低限のデータ・ベースが得られたほか、既知のことがらと未知のことがらとの選別ができた。第二は、生態系と土木工事計画における主要な要素と過程および両者の関係を明確にしたことである。

### 基本的問題

資源開発の生態的側面を考える上で、最も基本的な問題は何かだろうか。

土木工事とか産業プロジェクト、あるいは経済開発政策などが長期的にどのような意味合いをもっているかは、最初の時点ではなかなか完全に見通せるものではない。パイプライン建設に関するガイドラインによって、回廊計画(ガスおよび石油パイプラインを大規模の炭化水素開発地点からひくという計画)による環境に対する影響がどう積み重なっていくか、ということが調査されることになった。何十億ドルもするパイプライン建設は、開発の出発点であって、最終地点ではないという認識の上で立てはじめて、その影響の本当の大きさを知り、対応策を考えることができる。

夏の北極海は、何百万という水鳥や海鳥、海岸に住む鳥などの渡り鳥がやってきて、短い期間に巣を作り、ひなを育て、南へ帰るだけの力をつける。それを妨害したり遅らせたりす

れば、群体をすべての存在を危うくすることになりかねない。回遊魚もそういう変化に弱い。そうすると、七月にマッケンジー・デルタで子を生むシロクジラも危なくなる。

野生動物の弱さは、それぞれの生長過程と関係するだけでなく、これらの種族がある一定の時期に集中する場所とも関係する。原因は、一度にある特定の場所に寄り集まるところにある。しかし、大鹿やクジラが子を産み、鳥が巣を作り、あるいは魚が川の氷の下で冬を過ごせるだけの場所が十分ないことも原因である。動物によっては、人間の活動がもとで、あるいは自然界でしか生きられないために、すでにかなり数が減ったものもある。

このほど、北方における国立公園予定地として、六つの地域が指定されたが、これは大自然の中でしか生きられないある種の鳥や動物を保護するための政策の一環としてなされたものである。

以上述べたように、近年におけるエネルギー危機に対する認識と相まって、カナダ国民は北方開発に大きな関心を寄せた。北方開発と深く結びついている環境的および社会的要因に対する理解が高まったことは、技術の利用と不変の環境あるいは伝統的価値観とは矛盾しないという、開発に対する新しい発想が生まれてきたといえるかもしれない。これにより、北方の環境は開発に高い対価を要求せず、またそれ自体もそれだけの対価を払わなくてもすみそうである。また、そこに住むインディアンやエスキモーも、満足できる社会を築くだけの時間と資源を手にする、ということになる。



北西準州ブローにある石油掘削装置。